

ランチボックスによる給食も 残りわずかです！

平成29年度から、中学生の成長を支える、栄養バランスのとれた食事を提供することを目的としたランチボックス給食を開始しました。毎月行われる栄養教諭や弁当業者との意見交流会をもとに、よりおいしく、より栄養のある食事ができるよう、日々改善を重ねてきました。

そのランチボックス給食も、令和5年3月で終了します。新中学校では小学校と同様に自校方式（各学校の給食室において調理する）による給食を提供し、生徒による配膳を行います。

ランチボックス給食の終了まであと約半年、最後まで安全・安心でおいしい給食を提供できるよう、改良を続けていきます。



▲国際交流メニュー：韓国料理の「チーズタッカルビ」

ランチボックス給食

専用の器（ランチボックス）に入った、お弁当のような給食。

冷たいメニューは専用の冷蔵庫で冷やし、温かいメニューは直前に温め直し、提供しています。季節や行事などに合わせた、特別なメニューも登場します！

生涯学習イベントを開催しました

たがわトコナツキッズ(全5回)

田川市民会館

市内小学生を対象に、普段体験できない活動を通して『楽しむ・知る・考える』力を養うことを目的として82人が参加。工作や人権学習、ニュースポーツ体験をしたりと充実した1日になり、夏休みの楽しい思い出ができました。



カヌー体験教室(8月6日・20日)

彦山川(市立病院下付近)
中元寺川(水辺公園)

市内小学校高学年を対象に少年期における体力の向上を目的として、開催しました。22人の参加があり、田川市スポーツ推進委員の指導のもと怪我や事故もなく無事に開催することができました。



水泳教室(7月25日～29日)

伊田小学校プール

市内小学校低学年を対象に、水に対する恐怖心を払拭し、泳ぐことの楽しさを体感することを目的として開催しました。36人の参加があり、田川市水泳協会協力のもと、水に顔を付けられなかった児童も最終的には泳げるようになったりと、子ども達が成長した5日間となりました。

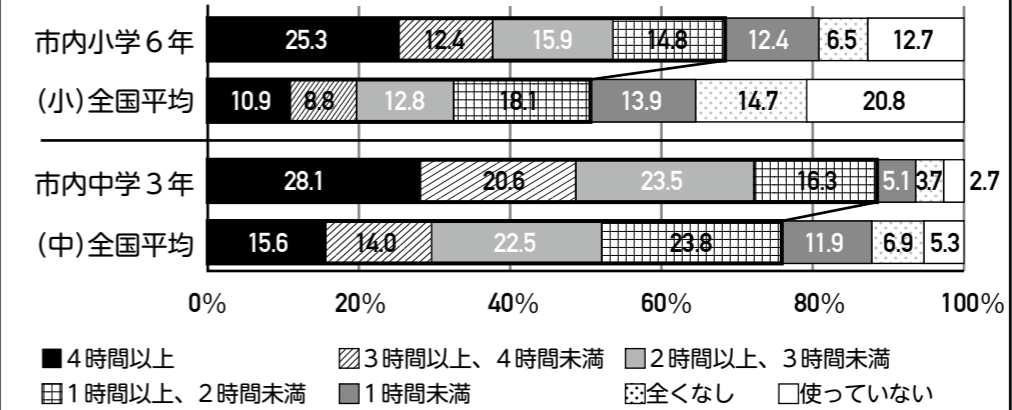


「ぐるみ」で子どもたちの読書習慣の充実を！

～スマホ・ゲームの時間を減らして、本にふれる時間を増やしましょう～

令和4年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果によると、市内小・中学生のスマートフォン（スマホ）やゲームの利用時間は全国平均と比べて長く、読書の時間は全国平均と比べて短いということが分かりました。

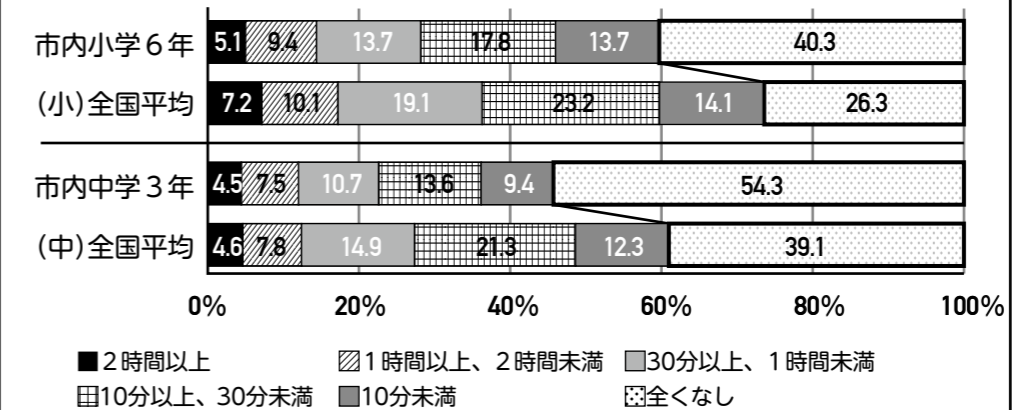
普段、1日あたりどれくらいの時間、スマホなどでSNSや動画を視聴しますか



毎日スマホを1時間以上使っている児童生徒の割合が、全国比を上回っています。



普段、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか



本を全く読んでいない児童生徒の割合が、とても多いです。



今回の学力調査の分析結果によると、スマホなどでSNSや動画を視聴する時間が短い児童生徒ほど、国語や算数・数学の正答率が高いことが明らかになっています。また、さまざまなジャンルの本を1日平均で30～60分ほど読む習慣がついている児童生徒ほど、国語はもちろんのこと算数・数学の正答率が高いことも明らかになっています。（ベネッセ教育総合研究所調べ）

児童生徒の学力向上につながる基盤の一つである「本に親しむ習慣」は、学校だけでなく家庭や地域での読書活動がとても大切です。家庭においても、「読書は大切な家庭学習のひとつ」と捉え、短い時間（10分以上）でも本にふれる時間をつくることや、休みの日などに一緒に図書館に行くなど、家庭でもできる読書活動（略して「うちどく」）に取り組んでみてください。



詳しい情報は
こちら！



「うちどく」のすすめ